たけのこ園 支援プログラム

事業所名　社会福祉法人たかはら学園　こども発達支援センター　たけのこ園　　作成日令和６年９月９日

法人（事業所）理念		「じしゅ・じりつ・じはつ」をあらゆる活動の基盤として、法人・職員が心を一つにし、保護者、利用者、地域住民、関係自治体等と連携し、「利用者が地域の中でごく当たり前の生活ができること」の実現を目指します。		
支援方針		障害児支援の基本理念に基づき、子どもの障害特性を踏まえた発達支援を提供する。また、子どものもっているエンパワメントを前提にした支援を行い、子ども一人ひとりの障害の状態や過程、特性に応じ合理的な配慮の提供を行う。子どもや保護者と対話を重ねて、成長の過程で障害を取り除くための取りくみを行う。家族支援では、子どもの成長・発達の過程で直面する様々な出来事に寄り添い、家族自身が内在的に持つ力を発揮できるよう支援する。地域社会との関わりについては保育所や幼稚園等との併行利用や移行に向けて支援を行い、子どものライフステージに沿った支援を提供していく。		
営業時間		８時３０分から　　１７時３０分まで	送迎実施の有無	あり　（なし）
		支援内容		
本人支援	健康・生活	子どもの健康的な心と体を育て、健康で安全な生活を送れるように健康状態の維持・改善に努める。その際、意思表示が困難である子どもの障害に配慮し、小さなサインを見逃さないようにきめ細かな観察を行う。リハビリテーションとして子どもが持つ機能を発展させながら、子どもに適した精神的、身体的支援を行う。また、睡眠、食事、排泄、衣類の着脱、身の回りの清潔等、基本的な生活習慣が身につけられるよう支援する。食育は口腔内機能や感覚などに配慮しながら支援する。生活面は障害特性を踏まえ、様々な遊びを通して学習できる環境を整え、時間や空間を絵カード等を使用しながら、視覚的に本人に分かりやすく構造化する。		
	運動・感覚	日常生活に必要な基本的な姿勢の保持や運動動作の向上に努める。自力で身体移動や歩行など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。感覚の過敏や鈍麻などそれらの特性を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整を行う。また、眼鏡や補聴器などの各種の補助機器を活用できるよう支援する。保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、日々の療育を通して支援する。		
	認知行動	カレンダーワークなどで、当日の日付・曜日・スケジュール・天気など視覚・聴覚でわかる提示を行い概念の習得を目指す。また、音楽療法などの療法活動を通じて聴覚の活用や発達を促し、視覚、聴覚、触覚などの感覚情報が適切に取得され、認知機能の発達を促す支援を行う。認知の偏りなど、その特性に配慮し、数量や形の大きさ、重さ、色の違い等の習得やこだわりに対する支援を行う。行動障害（衝動、多動、落ち着きのなさ、癇癪）への対応は、感覚や認知の偏り、コミュニケ―ションの困難性から生じるため適応行動を促す支援を行う。		
	言語 コミュニケーション	簡単な挨拶や会話など、言葉によるコミュニケーションのみならず、表情や身振りなど多様なコミュニケーション手段を活用して意思伝達が出来るようにする。子どもの既にできている行動に注目し、具体的な体験と言葉の意味を結びつけることなどにより自発的な発声を促し、体系的な言語を身につけるように支援する。指さし、身振り、手話、マカトンサイン、記号、絵カードなどのコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるように支援する。読み書き能力の向上として、障害特性に応じた支援を行う。		
	人間関係・社会性	身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。遊びを通じて人の動きを模倣をすることにより、社会性や人間関係の芽生えを支援する。一人遊びから共同遊びを通じて役割を分担しルールを守るなど社会性の発達を支援する。集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。		
家族支援		相談体制を充実し、家族が安心して子育てができるよう日頃から信頼関係を構築していく。保護者の思いを尊重し、保護者に寄り添った支援を行う。また、保護者同士の交流の機会を提供していく。	移行支援	障害のある子どもが、地域の保育園や幼稚園などで保育や教育を享受し適切な支援を受けられるよう、併用施設への見学や情報交換を行いながら、子どもたちを全人格的な観点から支援していく。また、就学は子どもの大きなライフステージとして捉え、保護者の不安を受け止め適切な選択が出来ように支援していく。
地域支援・地域連携		子どもたちが通う保育園や幼稚園、療育施設などと連携を取り、見学や情報交換などを通じ一事業所で完結することなく地域ぐるみで子どもの成長に関わっていく。	職員の質の向上	支援者の責務として、倫理観をもって専門的役割を自覚しその使命を果たす。5 領域に基づく本人支援は職員の質の向上と直結し、日常の支援や反省、振り返り、研修等含め日々研鑽を積む。施設内研修や外部研修などを通じ、職員のかかわる力（行動力）、かんがえる力（想像力）、つくる力（創造力）を培っていく。
主な行事等		・就学準備クラス・専門指導講師（臨床心理・作業・言語・音楽・口腔・個別学習）による講話や指導と面談・保護者面談・卒園児の保護者との交流・季節ごとの行事（いちご狩り、りんご狩り、夏祭り、プール遊び、クリスマス会、お別れ遠足等）・誕生会・毎月の園だよりの発行・保育園や幼稚園の見学と情報交換・ＨＰのブログの更新・散歩（片岡駅電車の見学・買い物）・消防訓練（避難訓練・消防車乗車体験）・交通安全教室・運動遊び等		